

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22014

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市の共通指標の項目 15「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある。」、項目 19「自分で計画を立てて勉強をしている。」の2項目において、肯定的な回答の割合が高い結果となった。この結果から、我々教職員が単元を見通した学習指導を意識して実践したことで、子どもたち自身も見通しをもって計画を立てながら学習に臨んだり、一時間一時間の学びを振り返り、成果を感じたりすることができるようになったと言える。昨年度までの研究で「あいをもとめる」ことを意識した研究実践の成果と考えられる。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標の項目 8「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。」、項目 9「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」、項目 14「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。」の3項目は昨年度と比べて、肯定的な回答の割合が低い結果となっている。この結果から、自らの考えを練り上げたり、分からないことを解決しようとしたりするために協働的に学ぶ良さを感じられていないと考えられる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇札幌市の共通指標の3「自分が必要とされていると感じる」等の相互承認に関連する項目において、肯定的な回答がやや低い傾向にある。学級や学年内での他者との関わりや、たてわり活動等の異学年交流などで、子ども同士の相互評価の場を設定したり、教師による肯定的な言葉かけ等を行ったりすることで、自分のよさに気付くような場や価値付けが重要となると考えられる。</p>

## 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

### 自分の考えや思いをもって、他者と関わりながら学びに向かう力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>◇研究主題「あいをもとめる子の育成」の実現 →本校経営重点にある「認め合い、支え合い、高め合い、分かち合い」を生かした学習活動の基盤となる主体性（あいをもとめる姿勢）を育てる。</p> <p>◇研究副主題「子ども一人一人が学びの主人公となる授業構築」の実現 →子どもが自ら学びに向かう姿勢を促す導入の工夫や学習意欲や見通しをもたせることを大切に授業構築。 →子どもの学ぶ意欲を持続させるため協働探究の価値を高める。</p>	<p>◇たてわり活動等の異学年交流の充実 →子どもが主体的に企画したり、積極的に参加したりする姿勢を促し、成果を相互評価できる場を設定する。</p> <p>◇他者に関心を持ち、協力して学校生活をよりよくしようとする姿勢の育成 →日常や行事等での振り返りの場の充実 →学年朝会や委員会活動での成果発表の場の設定</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
	<p>◇ICTを用いた思考・表現方法の推進 →個別探究や協働探究で活用することで、子ども一人一人が自分の考えと他者の考えをより比較しやすくなったり、教師が注目させたい考えを引き出し、学級全体で考えを深めたりすることができるようにする。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

